

<p><b>加部島暖地性植物群落（かべしまのだんちせいしょくぶつぐんらく）</b></p>	<table border="1"> <tr> <td>分野</td> <td>自然</td> </tr> </table>	分野	自然
	分野	自然	
<table border="1"> <tr> <td>地域</td> <td>呼子</td> </tr> </table> <p>◎地図・写真・統計資料など</p>  <p>（『佐賀県の文化財』より）</p> <p>◎引用・参考文献（出典）</p> <p>※「自然」の部「アコウ」参照</p> <p>◎もっと詳しく知りたい方は</p> <p>唐津市近代図書館へ お問い合わせください。</p> <p>■電話：0955-72-3467</p> <p>■ホームページ： <a href="http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html">http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html</a></p>	地域	呼子	
地域	呼子		

玄界灘に浮かぶ島々は、対馬暖流の影響を受け、県内でも温暖な所であり、暖地性植物が多く見られる。中でも加部島の暖地性植物群落は、最もよく保存されている。加部島は唐津市呼子町の沖にあり、現在、呼子大橋開通により陸続きになった。

加部島の中でも島東端の丘陵にある田島神社の社林（約35,600㎡）は常緑広葉樹林の天然林として、その植物相は特に優れており、海岸の自然林としても保存がよく、植物学上、貴重な存在である。北東部の海岸斜面は、ハマビワ、マサキ、トベラ、ヤブツバキ等が優先する風衝林。

南西・内陸部はスタジイ、タブノキ、シロダモなどの高木林。

南面中央部はホルトノキ、バクチノキなど高・亜高木が多く、暖地性の特徴を持つ。

全体的にシイ、ダブ林となっているが、低木層、草木層、ツル性植物も極めて自然に繁茂している。

特に貴重なことは、アオノクマタケランとギョクシンカの自生地ということである。

アオノクマタケランは台湾・九州・四国・紀伊半島南部・伊豆諸島に分布するが、加部島は分布において、日本海側の北限であり、県内唯一の自生地である。

ギョクシンカは台湾・九州に分布するが、加部島は杵岐につぐ北限になっており、個体数は少なく、30株ほどと推定されている。

昭和49年2月25日 県の天然記念物に指定

唐津市呼子町加部島  
保護すべき天然記念物（植物）に富んだ代表的一定の区域